

## 被団協ノーベル平和賞

## 核廃絶訴え 被爆実相伝える

## 日本2例目

【オスロ共同】ノルウ

エーのノーベル賞委員会は11日、2024年のノーベル平和賞を日本全国の被爆者らでつくる日本原水爆被害者団体協議会

(被団協、東京)に授与すると発表した。今年で

結成68年を迎え、核兵器

廃絶に向けた運動を長年

リードし、被爆の実相を

世界に伝えてきた取り組みを評価した。日本の個人や団体への平和賞は、

1974年の佐藤栄作元

首相に次いで2例目。

同委員会は2017年

に非政府組織(NGO)

「核兵器廃絶国際キャン

ペーン(ICAN)」に

も平和賞を授与してお

り、核廃絶の運動を改め

て後押しした形。ロシア

のウクライナ侵攻や北朝

鮮の核・ミサイル開発で

核の脅威が高まる中「核

なき世界」に向けた機運

を高める狙いがあると言

える。

被団協は1956年に

結成された。反核運動と

被爆体験の伝承を先導

し、後遺症に苦しむ被爆

者の救済に取り組んでき

た。核拡散防止条約(N

PT)再検討会議など核

関連の国際会議にも代表

団を派遣。核の脅威を生

き証人として訴える被爆

者の言葉は重く受け止め

られている。

授賞式は12月10日にオ

スロで行われ、賞金11

00万スウェーデン招

(約1億5千万円)が贈

られる。



8月6日、広島市の平和記念公園で開催された平和記念式典